
正体

炯々とある

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正体

【著者名】

堀々とある
の

【ISBN】

N5245N

【あらすじ】

堀々とあるのはなし

その男はここ数年、不幸な出来事にあい続けていた。

外に出れば、車やバイクが突つ込んでくるのは日常茶飯事、家の中に居ても、包丁で指を切つたり、熱湯をこぼしてやけどしたりと、全くついていなかつた。別に生まれた時から男が付いていなかつた訳ではなく、ここ数年で、憑いていない出来事が沢山起き始めたので、男は不思議でしようがなかつた。明らかに、偶然と言つ範囲を超えていた。

ある日、男が何となくネットサーフィンをしていると、占い店の広告が、表示されているのを見つけた。

「占いか…。この際だから一回見て貰うのも悪くないかな」男は何となくそつ考え、その広告されていた占いの店を調べた。結構近場であったので、明日行つて見るか、と思つた。

次の日、その店がある住所へと行く。店はビルの一室の中につたので、方向音痴気味である男は、少し店を見つけるのに苦労した。ビルの中に入り、店が入つている一階へと向かつ。店は一見すると、お洒落なカフェの様な煌びやかな感じであつた。本当にここが占い店なのか、と男は戸惑うが、建てられていた看板をよく見ると、広告で見たのと同じ店名であつたので、ひとまず男は、住所を間違えたのではない、と確認出来たので安心した。

男が店の前に出されている案内に従つて、店の奥へと進むと、変な黒い布を身にまとつた占い師が居る部屋にたどり着いた。案内によると、どうやらここが占う部屋であるらしかつたので、若干緊張しながら、相談し始めた。

「…で、その、私の守護霊…と言つたか、私に貧乏神の様な存在が、憑いているのでは無いかどうか、調べてもらいたいのですが」

「分かりました。では…」占い師は、テーブルに置かれていた水晶

玉に向かって、なにやら聞き取れない言葉を、ぶつぶつと数分間唱えたかと思うと、男の方へと顔を戻した。

「…私が見た限り、どうやら幸福の神が憑いている様ですが」

「幸福の神？ 私はここ数年、ありとあらゆる不幸な事に会い続けているのですが…、もう一度、詳しく診てもらえませんか？」

「ふむ…、ではもう少し詳しく調べます」占い師はそう言いつと、

また何か聞き取れない言葉をぶつぶつと呟いた後、また男に向き合つた。今度は何やら難しい表情を浮かべていた。

「うーん…、あなたKと言う名前を知っていますか？」

「何です突然…。Kと言つ名前ですか？ 知っていますよ。私の学生時代の同級生と同じ名前です。その同級生は私が相当嫌いだつたかは知りませんが、よく私をいじめっていましたからね…。嫌でも覚えていますよ。ですがKは数年前に亡くなつたと聞きました。何か関係でもあるんですか？」 予想外な質問であったので、男は少し戸惑いながら答えた。

「いえ実はですね、幸福の神と言つのは、死んだ人間の魂を無作為に選んで、その役職に就かせるらしいのです」

「へえ、まあ随分と適当なんですね…。で、それがどう関係するんですか？」

「つまりですね、死んだKと言つ人の魂が偶然、幸福の神に選ばれてしまつた様なんです。ですがKはあなたの事が嫌いなので、死ない程度に不幸を与えている。つまりいじめているのではないかと…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5245z/>

正体

2011年12月17日20時31分発行